

# 経 済 透 視 図

104

今回は前回に引き続 2 をクレジットとして  
きクライメートテック 発行し、取引できるよ  
の近況として、特に力 うにする仕組みだ。  
ーボンクレジットの直 カーボンクレジット  
近の動向について深掘 は、省エネルギー・再  
りしたい。クライメー 生可能エネルギーの導  
トテックは、深刻さを 入、森林保全、植林に  
増す気候変動問題の解 よるもののほかに、D  
決に向けた二酸化炭素 ACCS (大気から直  
(CO<sub>2</sub>) の排出量削 接炭素を回収・貯留す  
減や地球温暖化などに する技術) や BECCS  
対処するためのテック (バイオエネルギーを  
ロジックを指す。カーボ 使って炭素を回収・貯  
ンクレジットは、企業 留する技術) などの取  
が削減・吸収したCO<sub>2</sub> り組みにより創出され

## カーボンクレジットの動向

る。  
カーボンクレジット のみでは削減できない  
は、売り手と買い手の 温室効果ガス (GH  
双方にメリットがあ G) の排出量を相殺す  
る。売り手は売却によ ることが可能である。  
る利益を得ることがで 脱炭素推進に向け、

カーボンクレジットに ルをあらかじめ定めた  
は大きな期待が寄せら 取引所を開設する動き  
れているが、取引の活 が出てきた。  
性化のために解決すべ 第1に、政府が主体  
き課題がある。国内は となった取引所として  
主に相対取引であった 東京証券取引所が開設  
ことから価格決定の仕 したカーボン・クレジ  
組みが不透明と指摘さ ット市場がある。これ  
れており、削減量の算 は22年からの実証事業

現在の取引対象は日 で国内外の幅広いカー  
本政府が認証するJー ボンクレジット・排出  
クレジットに限られて 権を取り扱っていると  
いるが、今後、拡大を いう点にある。  
予定している。  
続いて、民間企業の 設は、取引の信頼性や  
イニシアチブとしてア 透明性の改善を通じて  
スエネ (東京都港区) 取引の活性化につなが  
とSBIホールデイン るほか、カーボンクレ  
グスの合弁会社として ット市場の拡大にも  
設立したCarbon 寄与する。  
EXがある。東証が 50年のカーボンニュ  
開設した市場との差別 ートラル (GHG排出  
化という意味では、J 量実質ゼロ) 実現のた  
ーククレジットのみなら めには、官民挙げての  
定された「GX (グリ さらなる努力が不可欠  
ズ、非化石証書 (非化 である。脱炭素に向け  
石電源で発電した電力 の証書) や民間・NG  
の証書) や民間・NG た今後の新たな取り組  
O主導で発行したボラ ミに期待したい。  
ンタリークレジットま (隔週水曜日に掲載)

## 透明性改善へ 取引市場開設

定・モニタリングの方 を経て開設されたもの  
法なども発展途上とい で、23年2月に閣議決  
える。  
これらの課題に対応 定された「GX (グリ  
すために、日本でも ーション) 実現に向け  
売買および決済制度な た基本方針」に基づい  
どについての共通ル たものである。

定・モニタリングの方 を経て開設されたもの  
法なども発展途上とい で、23年2月に閣議決  
える。  
これらの課題に対応 定された「GX (グリ  
すために、日本でも 定された「GX (グリ  
売買および決済制度な ーション) 実現に向け  
どについての共通ル た基本方針」に基づい  
たものである。



SMBCC日興証券  
プライベート・  
キャピタル・  
ソリューション室  
野田 宣幸

無断転載・複写禁止